

第7 2 次 印旛地区教育研究集会

特別支援教育 研究部提案資料

(テーマ)

構音に誤りのある児童の指導
～シ音のひずみの改善を目指して～

令和4年 8月24日

八街市立八街東小学校
門 幸枝

第7 2 次印旛教育研究会提案資料

(昨年度の1 1 月に行った授業の指導案です。児童が2 年生になって引き継ぎました。)

場 所 ことばの教室1 組
指導者 八街東小 門 幸枝

構音に誤りのある児童の指導 ～シ音の歪みの改善を目指して～

1 主題設定の理由

A 児は、1 年生の6 月からことばの教室へ通級し、週に2 回の指導を受けている。(現在は3 年生) 検査を受け当時からサ行音の歪みのため通級することになった。2 年生になり引き継ぎを行い、1 年時とは担当が変わっている。

2 年生になってからの構音検査でも、やはりサ行音が歪んでいるという結果になった。今年度も週に2 回の通級をしている。A 児は、サ音はよい音が出せるようになってきているが、シ音はキ音に聞こえてしまうため、シ音を頑張っって練習するという目標を立てた。シ音の練習では、「シー」の息は出すことができたが、発音するとキ音に聞こえてしまう状態であった。好きな食べ物や友達の名前が伝わらなかつたり、会話がわかりにくいことがあつたりして、本人も保護者も困っている。また、きれいな発音ができるようになりたいと強く望んでいる。そこで、本主題を設定した。

指導の時間は、常に発音改善に向け一生懸命取り組んでいる。友達に優しく穏やかに接することができ、いつも笑顔を見せてくれて明るい性格である。学習も頑張っって取り組んでいるが平仮名やカタカナの表記が苦手なところがあり、練習が必要であると思われる。普段は落ち着いて行動しているが言葉の教室に来ると、他動になるところがあり落ち着かないことが多い。また、とてもナイーブな一面もあり、大人の見守りが必要などころもあるため保護者とのやりとりを大切にしている。連絡ファイルで、その日の成果や様子を伝え合うことで、本人の成長を見守っている。児童の様子を受けて、以下のような指導・支援を行っていく。

2 児童の実態

A 児は、舌を上下左右に動かす、丸める、唇をなめる、舌先で強く頬を内側から押すことなどよくできるが、舌をコントロールする力は十分であるとはいえない。舌を脱力させ平らに保つことができず、すぐにびくびくと動いてしまう。歪みによる発音の改善には、舌全体の力を抜いた平らな舌が大切である。そこで、舌づくりを丁寧に行う。まずは、エの口形で平らな舌をつくり、舌全体の余分な力を抜く練習を行う。基本となる脱力した平らな舌をつくれるようになった後、シ音の練習を行う。

3 見通し・方法

音づくりを行う際は、正しい口形に気を付けていく必要がある。そこで、母音の口形練習を行う口や舌の体操を取り入れ、正しい音作りにつなげていく。

正しい音の獲得には、音の正否を聞き分けることができる耳を育てることが大切である。A は、自分の出した音の誤りについては気付くことができている。発音練習の際には、歪んでいるか正しかったかどうかを、本人が確認できるようにしていく。強めの「シー」の息出しからの、シ音の単音→無意味音節→単語→句や短文の順で焦らずに丁寧に進めていく。

粗大運動や微細運動は、言葉の機能との関わりが大きいため、指導時間に常に取り入れていくようにする。

4 個別の目標及び指導計画と指導経過

2020 年6 月～2021 年9 月の指導経過 (別紙参照)

2020 年度 (1 年生)	構音検査 (2020.11.20) サ行音, 夕行音が不明瞭
2021 年度 (2 年生)	構音検査 (2021.4.22) サ行音, 夕行音が不明瞭

2021 年度 (2 年生)

保護者・担任からの希望	・きれいな発音ができるようになってほしい。
-------------	-----------------------

検査等	・構音検査（2021.6.11） サ行音，タ行音が不明瞭
長期目標	・サ音を文章や会話の中で正しく発音することができる。 ・シ音を単語や短文の中で正しく発音することができる。

指導計画（前期）

短期目標	指導内容・手立て	評価と課題
<ul style="list-style-type: none"> 舌の体操に進んで取り組むことができる。 舌の力を抜いたホットケーキのような舌を10秒持続することができる。 舌の力を抜いて，エの口形で平らな舌を安定させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鏡を見ながら音楽に合わせて舌の体操を行うことで，舌をなめらかに動かせるようにする。 舌を出した状態で，余分な力が入らないように鏡を見ながら繰り返し練習をする。 舌を丸めたトンネルの状態から開いたり，上唇に舌を付けてから平らな舌をつくったりする練習を行い，舌の余分な力を抜くことができるようにする。 エの口形で，息をそっと出しても平らな舌をつくることができるようにする。 舌の端を左右の口角に付けることを意識させて，エの口形で平らな舌をつくる練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 舌の体操では，舌先のコントロール力を上げるために，一つ一つの動きを丁寧にいった。その後，リズムに合わせて行い，なめらかに動かせるようになった。 上唇に舌先を付けて下げたり，舌を丸めたトンネルの形から開いたりする動きを練習した。6月中に，ホットケーキのような柔らかい舌を10秒保つことができた。 7月からは，お皿のような舌を目指して，息の道を意識させ，「スー」とそっと息を出しながら練習をした。これまでの練習の成果から，すばやく力の抜いた平らな舌をつくるできるようになった。7月下旬には，「スー スー スー」と連続で，息を出す練習に取り組んだ。舌の奥が盛り上がり，びくびくと動いてしまったりすることが多かったが，夏休み明けには平らな舌を保持できるようになっていた。

指導計画（後期）

短期目標	指導内容・手立て	評価と課題
<ul style="list-style-type: none"> 舌の体操に進んで取り組むことができる。 舌の力を抜いて，イの口形で平らな舌を安定させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鏡を見ながら音楽に合わせて舌の体操を行うことで，舌の力を抜いてなめらかに動かせるようにする。（平らな舌は前期に引き続き，後期も行っていく。） イの口形で，息をそっと出しても平らな舌をつくることができるようにする。 	

<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シ音（単音）が正しく発音できる。 ・シ音を無意味音節で正しく発音することができる。 ・シ音作りを進んで取り組むことができる。シ音が作れたら、無意味音節、単語、短文の中で正しく発音できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舌の端を左右の口角に付けることを意識させて、イの口形で平らな舌をつくる練習をする。 ・イの口形で平らな舌を出したまま、シ音を繰り返し言う練習をし、シ音の単音を正しく発音できるようにする。 ・シ音と他の音を組み合わせて言う練習を繰り返し、舌を平らに保ったまま正しく発音できるようにする。 ・息を出しながらイ音を同時に言うことで、シ音につなげられるようにする。 ・シ音の音がつくれたら、無意味音節、単語、語句、短文の順で繰り返し行い、いつでも発音できるようにする。 	
--	---	--

指導経過（前期）

指導内容	児童の様子
<p>〈実態把握・レポート作り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・構音検査 <p>〈構音器官の機能の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舌の体操 <p>〈音の聞き分け〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シ音の自己弁別 <p>〈正しい音の獲得〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平らな舌づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から授業を開始した。自己紹介を含め、自分のことや家族のことをたくさん話してくれるが、サ行音が歪んでいるため話していることが聞き取りにくく、伝わってこない言葉が多い。本人も言にくい言葉をいくつか挙げていた。 ・構音検査では、自分が正しく発音できていないことに気付いていた。 ・舌の両端、舌の真ん中から奥にかけて、力が入りやすくなっていた。舌先をコントロールする力はそれほど弱くはなく、上下左右の唇に舌先を付ける動きや頬を内側から押ししたり、唇をそっとなめたりする動きには問題ないが、脱力した平らな舌を維持することができなかった。体全体を落ち着けて、ゆったりすることが苦手なためか、一学期の終わりまで舌を安定して脱力することができずにいた。 ・正しいシ音と歪んでいる音の自己弁別はできる。 ・6月中は、エの口形で脱力した平らな舌を目指して、トンネルの形から舌の端が口角に付くように開いたり上唇に付けてから舌を下ろしたりする練習を繰り返し行った。舌先が動くことがあったが、少しだけ保つことができた。 ・次に、舌の真ん中の力を抜くため、お皿のような舌づくりの練習に入った。トンネルの形から舌の端が口角に付くように開く動きに

<ul style="list-style-type: none"> ・シ音につなげるイ音での平らな舌づくり 	<p>より、舌の真ん中も徐々に力が抜けてきた。根気のいる練習にもついてきて、努力を惜しまず練習を積み重ねていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月からは、「スー」とそっと息だけを出し、息に音を乗せていくことを目指した。音が歪んでしまったら、すぐに「スー」の息だけを出すことに戻るようにして、正しいス音の獲得に取り組んだ。 ・夏休み中、「あいうべ体操」や「平らな舌」を練習したようで、脱力した平らな舌が上手になっていた。 ・イ音での平らな舌の練習を9月から始めた。イ音の単音練習では、余分な力が入らず、スムーズに練習が進んだ。シ音の付く言葉を練習してみると、舌の奥や舌の端に力が入ってしまったため、平らな舌づくりの練習を再度行った。トンネルの形から舌の端が口角に付くように開く動きをし、開いた時に10秒保つ練習を繰り返し行った。平らな舌を出したり引いたりする動きが上手になり、すばやく平らな舌をつくることができるようになった。
---	---

指導経過（後期）

指導内容	児童の様子
<p>〈構音器官の機能の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舌の体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップとして、母音の口形を意識させた体操を取り入れてきた。家庭では、ことばの教室でやったことを積極的に取り組んでいる様子がある。
<p>〈音の聞き分け〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シ音の自己弁別 	<ul style="list-style-type: none"> ・シ音に限らず、歪んでいる音と正しい音の自己弁別ができています。
<p>〈正しい音の獲得〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イ」の口形で平らな舌づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月から引き続き「イ」の口形での平らな舌づくりを行った。平らな舌を唇にそっと乗せるようにすると、「イ」の口形でも平らな舌を20秒維持することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・イ音の無意味音節 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ音に様々な五十音を付けて練習した。イ音の単音よりも、他の音と組み合わせての練習のほうが、余分な力が入らず奥まで平らな舌をつくることができていた。語頭→語尾→語中の順で丁寧に進めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・イ音での平らな舌（単語→短文） 	<ul style="list-style-type: none"> ・無意味音節での平らな舌を繰り返し練習したことにより、イ音の付く単語練習はスムーズに行うことができた。語中の単語練習では平らな舌がつかれず、何度か練習をした。また、歪んでいる音が前にある単語は、平らな舌でのイ音が難しかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・シ音の無意味音節 	<ul style="list-style-type: none"> ・シ音の息出しはできているためシ音の単音練習を行った。時折誤るが、よい音が出るようになってきた。その後、シ音に母音を付けて練習を行った。母音+シ音は、余分な力が入らず平らな舌を保って発音することができた。しかし、他の音と組み合わせると、舌の右側が引っ張られてしまったため、口形と平らな舌を意識させて丁寧に練習を行った。 ・次に、シ音の単語練習を始めた。初めは、舌に力が入り、口の中へと舌が入り込んでしまい、シ音がキ音の発音になる確率が高かった。「シー」の息出しにもどりつつ、トークバックを使って、

	<p>自分の声を自己弁別させながら、丁寧に単語や短文の練習を進めた。すると、語尾では高い確率でシ音のきれいな音を出すことができるようになってきた。</p> <p>・語頭での誤りが多く、シ音が続くと2 つめが歪む。また、チ音やツ音と重なると歪むことが多くみられた。</p>
--	---

5 実践

(1) 目標

- ・シ音のある単語を正しく発音することができる。
- ・自分の発音したシ音の正誤弁別ができる。

時配	学習活動と内容	支援（・）と評価（○）	資料等
10	1 始めのあいさつをする。 ・出席カードにシールを貼り、由会話をする。	・話したい内容があれば、あいさつをせずに自由会話を続ける。自由会話をする中で、リラックスした状態で学習に入れるようにする。	出席カード シール
3	2 今月のチャレンジに挑戦する。	・余分な力を抜くために、体幹を鍛えるバランス運動を取り入れる。	バランスボード
3	3 本時の学習の予定を知り、めあてを書く。	・学習内容を知らせ、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・前回の学習を振り返ったり本時の学習を確認したりして、A児がめあてをたてられるようにする。	お手玉 学習ファイル
シ音が付く単語を練習しよう。			
8	4 舌と口の体操を行う。 ・舌や口、口唇の体操 ・「あいうべ体操」 ・「あいうえあおい」 ・「あいうえおにぎり」 ・平らな舌	・テンポよくなめらかに舌を動かして舌の体操ができるように、ジブリの曲に合わせて行う。 ・平らな舌を出したり引いたりしてもできるように、詩の音読を舌出して読み、平らな舌をつくるようにする。 ・平らな舌は、舌の端が両口角に触れているか、舌の奥や端に力が入っていないか、または、ピクピクと動いていないかなど、ポイントを示すことで、鏡を見て確認できるようにする。 ・ペンライトや鏡を使って、舌の奥が意識できるようにする。	お手玉 学習ファイル 振り返りカード CD 鏡
21	5 語頭にシ音のある単語を繰り返し練習する。 ・シ音の息出しと単音を確認する。 ・語頭にシ音のある単語練習をする。 ・ゲームをやりながら単語の練習をする。	・きれいなシ音が出せたときは称賛し、自信をもつことができるようにする。 ・発音したシ音が正しいか歪んでいるかを自己弁別できるように一回ずつ声をかける。 ・聞き取り辛そうなときはトークバック（自分の声を聞き取りやすくする道具）を持たせる。 ・ゲーム的要素を取り入れて、楽しく練習に取り組めるようにする。 ○シ音のある単語を正しく発音することができる。	すごろく カード

3	<p>6 振り返りカードを記入する。</p> <p>7 終わりのあいさつをする。</p>	<p>○自分の発音したシ音の正誤を聞き分けることができる。</p> <p>・本時のめあてと学習内容を確認し、A 児の言葉で振り返りができるようにする。</p> <p>・振り返りをする事で、自分のがんばりを認めることができるようにする。また、良かった点を具体的に称賛し、次時への意欲につなげられるようにする。</p>	<p>単語集</p> <p>振り返りカード</p>
---	--	---	---------------------------

6 成果と課題（成果○課題●）

- イ音の舌出し，エ音の舌出し，平らな舌を安定させることでシ音の息出しができるようになった。
- シ音の息出しでは，息を強めにやや下方向に出させることで，きれいなシ音の発音につなげることができた。
- シ音が改善できると，チ音やキ音も改善することができた。
- 改善したことが自信になり，家でも教室でも，きれいに発音することを意識して生活することができ，さらなる改善につなげることができた。
- 夢中になって話をすると，時折，誤り音が出ることがあるので，ことばの教室では気が付いて言い直しがさせられるが，それ以外では言い直しが難しい。

7 現在の様子

- 文章の中でも会話の中でも般化されて，誤り音もなく，日常生活で保護者も気になるところがなくなったとのこと。完全に般化するまで様子を見つつ，苦手な学習も見ていくことを保護者と決め，現在も通級している。
- 平仮名や拗音を表現することが少々難しいところがあるため，聞く聞くドリルを使ったり，教師の言う拗音を文字で表したりして，文字に慣れていくように練習している。